

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

unicef 
世界の子どもたちのために

vol. 42
2014年1月号



第35回ユニセフハンド・イン・ハンドの街頭募金活動が姫路・加古川・神戸(名谷・元町・三宮・住吉)・西宮・伊丹・宝塚の各地で行われた。小さな善意の輪は、栄養不良に苦しむ子どもたちへ届ける大きな輪に。

CONTENTS

2-5 特集
ふるさとを追われた暮らし
今と未来は

6-7 活動ファイル
2013年9月~12月

8 お知らせ

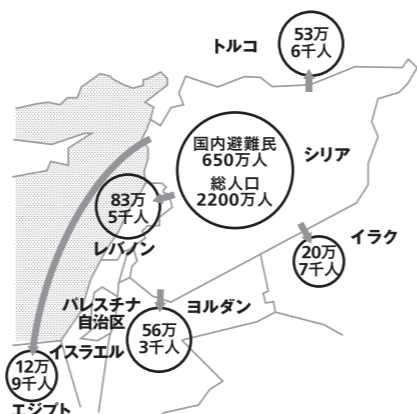


国内避難民の家族
カミシュリにて
(撮影 玉本英子)

EVENT REPORT 1

第6回国際理解講座 シリア報告会

戦禍にのみ込まれた
暮らしの中で苦境にあえぐ
市民の叫びが聞こえる。



シリアの紛争による国内および近隣国への避難民数

シリアに未来を

玉本さんは、開口一番「今のシリアは何が正義なのかさっぱりわからない状況」と切り出した。

2013年4月、北部の町カミシュリ。その映像は想像をはるかに超え、激しく生々しい。その中に市民が語る真実があった。「ナンを買うには早朝に並ぶか10倍の値段で買うしかない」と女性はある。家庭の電気は1時間つづのがやっと。家の中で暮らす子どもたちは「本当に悲しい。学校へ行きたいのに」と訴える。「教育が無ければシリアの未来はなくなりません」と語る女子学生の声には絶望感が。

玉本さんは「子どもたちは追い詰められ、自分の命や将来がどうなるのかもわからない状況。これはシリアだけではない。例えば震災。福島にいる人も福島から移住した人も本当に「ついてすよね」と投げかけた。

次の町はラムサンラン。治安の悪い県から逃げてきた男性は「空爆が始ま



特集

ふるさとを追われた暮らし 今と未来は

EVENT REPORT 1 シリア報告会

EVENT REPORT 2 「飯舘村の暮らし」写真展 & ギャラリートーク

内戦が続くシリア。原発事故に翻弄される福島。遠く離れたシリアと日本で同じような状況が起きている。これまで暮らしてきたいつもの日々が突然、外部からの要因により奪われている。ふるさとを追われた人々は今、どのように暮らし、どのように未来を見出せるのか。二つのイベントを追いながら、考えてみたい。

litate, Fukushima

り親戚が亡くなった。どの勢力も政府も闘うことに必死で、その中に全然関係のない市民が放り込まれている」と嘆いた。銃弾の穴だらけの壁、血の跡が残る町。イスラム教強硬派に店を爆破されたというキリスト教徒は「これが人のすることですか。何が革命ですか。どこに平和があるんですか。対話があるんですか。昔の町にはもう戻れない」と怒りをぶつけた。

日本から 心を寄せて

8月。化学兵器が使用され、たくさんの子どもたちが犠牲となった。国連の査察が入ったが、深刻な状況に追い打ちをかけた。緊急支援活動の道は閉ざされたまま。玉本さんは「大量破壊兵器が使用された点において、被爆国である日本はもっと声を上げることも出来たのでは」と訴えた。

2014年1月にはジュネーブで和平会議が予定されている。玉本さんは「みなさんもっと関心を持ってください。今は支援、支援かなと思いません。避難民を受け入れているヨルダンやレバノンへの支援が必要。私はシ



リアの美しい町や穏やかでお茶目な人々が大好きです。みなさんもフェイスブックなどでつながることは可能です」と訴え、締めくくった。

ユニセフの調査では難民となった子どもは約100万人。急性栄養不良の子どもの数も増えている。「関心を持ち支援を続ける」。その行動が求められる。

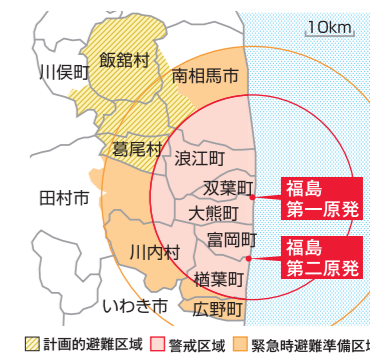
玉本英子さん
アジアプレス所属ジャーナリスト。1994年からアフガニスタン、コンゴ、イラク、中東の紛争地域の取材を行う。

●Event Data イベント概要
日時 2013年11月30日(土)
会場 コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)
参加人数 41人

EVENT REPORT 2

「飯館村の暮らし」写真展 & ギャラリートーク

飯館村は、地震そのものによる被害より福島原発事故の影響は非常に深刻だった。悲しみを引きずるのではなく、笑顔で生きていけるように応援したい。



私たちが忘れないで
あの笑顔をふたたび

「飯館村の暮らし」写真展では、東日本大震災の半年から一年前に撮られた写真が展示されていた。

飯館村の人々の心豊かな暮らしを伝えたいという菅野さんの気持ちが見る者の心をとらえた。人々の笑顔、都会にも昔前にはあった懐かしい光景、子どもや孫にも一度は経験させてやりたいと思う自然の中の遊びが写真の中にあつた。

しかし、それも今は昔。飯館村には人がいなくなつてしまった。放射性物質



魚つかみをしている子どもたち

に汚染されていることが分かったからだ。飯館村のホームページでは2013年12月1日現在の村の人口6698人のうち6618人が村を離れ、県内外の仮設住宅、借り上げ住宅、親族や施設に身を寄せている。ユニセフという国内避難民である。

平穏な生活を奪われた村人たち、子どもたち、「私たちが忘れないで。いつか笑顔を取り戻すからね。」と語りかけているようだ。

ギャラリートーク

「二つの写真を指さしながら背景にある人模様を話すことからギャラリートークは始まった。

人々の暮らしを撮るのがお好きな菅野さんは、素朴な良さに魅かれ、飯館村へ幾度となく通われたそう。最初の出会いはおばあちゃんと山羊。お年寄りも参加できる「縄縄い競争」や露店も出る運動会は、まるで子どもから大人までみんなが楽しむお祭りのよう。手ぬぐいの似合う優しいお母さん

たちを撮った写真「大根シスターズ」はNHKの放送でも使われた。話が進むにつれ、菅野さんの言葉に悔しさがにじむ。

福島原発から30キロメートルも離れ、原発とは無縁の飯館村は、風で運ばれた放射性物質により高濃度で汚染されていた。人々の避難は遅れた。原発事故後の正確な情報や的確な判断が得られなかったからだ。人々の生活は原発により壊された。故郷も仕事も失い、仮住まいを余儀なくされた。生活保障があつても、「する事」がないこと、先の見通しが立たないまま暮らすことは大きな苦痛であり、不安が募るばかりである。

菅野さんは現在、写真に収めた村人

● Event Data イベント概要

日時	写真展 2013年9月27日～10月6日
	ギャラリートーク 2013年9月28日
会場	コープこうべ生活文化センター
主催	兵庫県ユニセフ協会、菅野千代子写真展実行委員会
協力	コープこうべ
後援	相馬郡飯館村



菅野千代子さん
ニッコールクラブ会員。全日本写真連盟会員。各種フォトコンテストなどで入賞多数。浪江町に住んで看護師として働きながら、折に触れて飯館村に通い、山里の暮らしを撮り続けてきた。現在、福島県に仮住まいしながら、定住の地を探している。

たちを探し、今の生活を撮っておられるそうだ。

捕ったカエルをうれしそうに見せる少女



笑顔優しいお母さんたち「大根シスターズ」

column 失われた日本の原風景

菅野千代子

カメラマンにとって、飯館村はシャッターチャンスの宝庫であつた。村は標高400～600メートルの高原地帯にあり、日本の原風景といえる景色、家並みが数多く見られ、四季を通じて訪れる者に安らぎを与えてくれた。

村民は外来者に親切で、カメラを向けても断られた記憶がない。おまけに、農作物をたくさん頂戴して、その優しさとおいしさに感激した。全国の美しい村連合に加盟しているが、美しい村は単に景色のみならず、人づくりが結実したものと実感した。また、村の精神でもある「まてい(注)」の心は、物に溢れた現代の社会に警鐘を鳴らしてくれた。

夏の子どもの川遊び。はしゃぐ声が聞こえてきそうである。70歳近い私が子どもだった頃、田んぼの水路で川魚を獲った記憶が蘇るが、今の日本でそうしたやすく見られる景色ではない。

豊かな自然を利用して、山羊、猪、牛、馬なども飼育されていた。写真のおばあちゃんは小遣いで山羊を買ったが、孫のようにかわいいと言った。そのあとつがいにして子どもまで産まれたが、原発避難の時に、泣く泣く手放したそうである。

冬の飯館村は標高があるため、真っ白の銀世界となり、厳しい寒さの中でも特産の干し大根を地域ごとに作り出荷していた。おふくろの味を好む人にはこたえられない食べ物である。広い庭一面に干された大

根は飯館村の自然風景に良くマッチしていた。村は高冷地であるため、以前は農作物が実らず、現在の農業形態になるまでは大変な苦勞をしたという。やっと高冷地ならではの村づくりができ、これからだという時に、福島第一原発の爆発事故により、30キロメートルも離れているにもかかわらず、風向きによって村が放射能で汚染され、全村警戒区域となった。

写真に映された一人ひとりの笑顔が今は悲しい。突然村の暮らしを奪われてしまった憤り、怒り、悔しさ、無念さ、不安、悲しみが見えてくる。村を追われて家族がバラバラになり、今どこにどうしているだろうと思うと怒りで胸が震える。原発事故は平穏な村の暮らしを一気に全て奪い去った。

美しい村の自然、人びとの暮らしを奪う権利など、国であれ企業であれ、あつていいものであろうか。心の拠りどころとなる美しい日本の自然を消失させた責任は大きい。狭い日本の各地に原子力発電所はある。福島二の舞が、どこになるかわからない。次代を担う子どもたちに、安全で美しい自然を残す責任がわれわれ大人たちにはある。全国の子どもたちに同じ苦しみを絶対に味わわせてはいけない。

(注)「真手」を語源とした、真心を持って、手間を惜しまず、つましくという意味の東北地方で使われる方言

『DAYS JAPAN』より

5 トライやる

11/5～11/8 神戸市立本山中学校:堀岡 陸さん、深尾 竜司さん
 11/11～11/15 神戸市立御影中学校:伊藤 すみれさん、寛 未希さん
 神戸大学附属中等教育学校明石校舎:村上 航太さん
 神戸大学附属中等教育学校住吉校舎:片岡 龍威さん

ユニセフ基礎学習、主体性を重んじた調べ学習、ユニセフ製品の頒布、バザーへの参加、緊急募金活動などの体験学習をした。緊迫したシリア情勢、台風30号に見舞われたフィリピンなど、生徒たちの国際社会への関心が深まった。



6 出前学習会 国連ユニセフ模擬会議をしよう

日時 10月4日(金)
 場所 神戸大学付属住吉小学校
 参加人数 6年生 23人

総合学習では、開発途上国における飢餓や自分たちの身近にある食料廃棄の実態などの課題取り組んでいた。9月19日には、大丸前で募金活動を実施。学習会当日は、難民キャンプにいるシリアの子どもたちに必要な支援活動について活発に話し合った。支援策として、いつでも学ぶことができる環境づくり、コミュニティづくり、学習を教える大人が必要、などの具体的な考えが出された。さらに、今、子どもたちが学んでこそ、争いは無くなるのではという意見にもつながった。募金贈呈では、代表の児童が「私たちのこの募金はたくさんの方の思いが詰まっています。どうか、世界の困っている子どもたちのために大切にしてください」と、述べた。

7 ひょうご教育フェスティバル

日時 11月9日(土)・10日(日)
 場所 神戸市立向洋中学校
 主催 兵庫県文化教育研究所 兵庫県教職員組合

「ひょうご教育フェスティバル」は、県内各地の学校を会場に毎年行われています。今回、初めて兵庫県ユニセフ協会に展示、体験コーナーへの参加の呼びかけがありました。

当日は、1つの教室にポスターや水がめ、蚊帳、地雷のレプリカを展示しました。事前にトライやるの中学生が作成した『子どもの権利条約』のポスターは、わかりやすく効果的でした。「経口補水療法」の説明では、実際に水、砂糖、塩で作ったりしました。2日間にわたって大勢の人が見学や体験に訪れ、私たちは説明、対応に大忙しでしたが、少しでも、ユニセフへの理解、兵庫県ユニセフ協会の認知度のアップにつながったと思います。(学習チーム 樋口陽子)

8 国際理解講座 (会場:コープこうべ生活文化センター)

第4回 自立をサポートする支援とは何か



講師 菅野芳春さん(青年海外協力隊OB、NGO ガーナ支援交流協会)
 日時 9月21日(土)
 参加者 26人

菅野さんは39歳で青年海外協力隊へ参加。ガーナから帰国後、NGO「GAFAガーナ支援交流協会」を設立。サトウキビ栽培を通じた雇用創出と自立支援を計画、沖縄で栽培実習を始めた。2011年東日本大震災が発生。石巻に移住し、「支援の会」を設立。被災者が主体となって有償で炊き出し業務を行う給食システムは、高齢者の見守りも兼ねた有料での弁当配布事業に発展していった。現在、ガーナのろうけつ染め生地を石巻のお母さんたちが製品に仕上げる支援を行っている。働いて稼ぐ当たり前のことができるように、雇用創出、自立支援をサポートしている。

第5回 学ぶよろこび ～地球人として～



講師 カンベンガ マリールイズさん
 (NPOルワンダの教育を考える会 理事長)
 日時 11月19日(土)
 参加者 61人

私は、マリールイズさんの講演は初めてなのでわくわくしながら聞きました。心に残ったことは、マリールイズさんが、ルワンダの子どもたちに「大きくなったら何になりたい」と聞くと、「それまで生きているかわからない」という答えが返ってきたことです。まさか、そのような言葉が返ってくるなんて思いもしませんでした。1994年の大虐殺を体験してから、マリールイズさんは朝起きると、生きていることを実感されるそうです。日本の子どもたちにとっては当たり前のことです。しかし、そうではないということです。それから、マリールイズさんは学んだことは消えることのない宝物になると、話されました。今、学ぶ環境にいることに感謝し、頑張ろうという気持ちになりました。(ユニース 上野恵理)

1 兵庫から岩手へ 第3弾 チューリップ募金

2011年から届けているチューリップの球根。今年は10月におさなご幼稚園、みどり幼稚園、大槌保育園へ届けた。



2 シリア・フィリピン支援 ユニセフバザー開催

日時 11月16日(土)
 場所 コープこうべ生活文化センター
 主催 バザー実行委員会

今年も恒例のユニセフバザーを実施し、収益金は163,576円になりました。ご協力ありがとうございました。



3 フィリピン台風30号 緊急街頭募金活動

日時/場所 11月16日(土) JR住吉駅付近
 12月 7日(土) JR神戸駅付近

寒風の中、多くの方が私たちの声に耳を傾け、ご協力くださいました。今回のフィリピン台風において、被災者数は1,440万人以上、支援が必要な子どもの数は約600万人、避難民数は約362万人となっています。私たちは、これからも支援活動を続けていかなければいけないと感じました。(福井哉菜)



4 世界手洗いの日 キザニアのイベントに参加

日時 10月14日(月)
 会場 キザニア(西宮市甲子園)

「こども手洗い調査隊@キザニア甲子園」で、学生ボランティア「ユニーズ」が手洗いダンスを披露した。



Activity File 活動ファイル



兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
 2013年9月～12月

活動一覽 Activity List

学習会訪問活動一覽

月日	訪問先	対象	人数
9月 8日	アイセックジャパン	大学生	3
10月 4日	神戸大学附属住吉小学校	小学6年	23
10月 4日	大阪経済大学	大学生	20
10月29日	淡路市立石屋小学校	小学6年	51
10月31日	淡路市立石屋小学校	教職員	30
11月 4日	ボーイスカウト姫路第16団	小学生	37
11月20日	福崎町立高岡小学校	小学5、6年	27
11月29日	神戸市立舞子小学校	小学6年	152
11月30日	明石市立朝霧小学校	小学6年	112
12月 1日	ガールスカウト西宮第28団	小学生	15
12月 7日	ボーイスカウト西宮第13団	小学生	15
12月 9日	コープこうべ大阪北地区平和のついで	大人	46
12月18日	西宮市立甲子園浜小学校	小学5年	134

地域活動一覽

月日	イベント名	
10月14日	キザニア世界手洗いダンスに参加	
10月19日	姫路市医師会看護専門学校 文化祭に参加	※
10月26、27日	きょうどう学苑祭	※
10月～11月	コープこうべ組合員まつり(地域名:苦楽園、夙川、香櫨園、三木緑が丘、浜芦屋、CL甲南、打出浜、西宮東、武庫川、東加古川、稲美、上郡、姫路西、姫路田寺、相生、姫路東、たつの、宍粟、神吉、高砂、姫路南、佐用)	
11月2、3日	兵庫県ふれあいの祭典	※
11月 4日	ユニセフカップ西宮	※
11月9、10日	ひょうご教育フェスティバルに参加	
11月16日	ユニセフバザー	
11月16日	コープこうべ第3地区ボランティア交流会	※
11月16日	フィリピン台風30号緊急募金活動	
11月30日	西宮ふるさとウォーク	※
12月7日	フィリピン台風30号緊急募金活動	
12月23日	ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動	

※ユニセフ製品を頒布しました。ご協力ありがとうございました。

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
フィリピン台風	フィリピン台風 K1-280兵庫	00190-5-31000
アフリカ干ばつ	アフリカ干ばつ K1-280兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

*手数料免除

事務所一時移転のお知らせ

コープこうべ生活文化センター耐震工事のため、兵庫県ユニセフ協会事務所は2014年4月～6月の期間、一時的に同センター西館2Fに移ります。

Wish ユニセフ兵庫ニュース vol.42 2014年1月号

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2014年（平成26年）1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

（2014年4月～6月の期間は西館2F）

電話：078-435-1605

FAX：078-451-9830

（お問い合わせは平日の10:00～16:00）

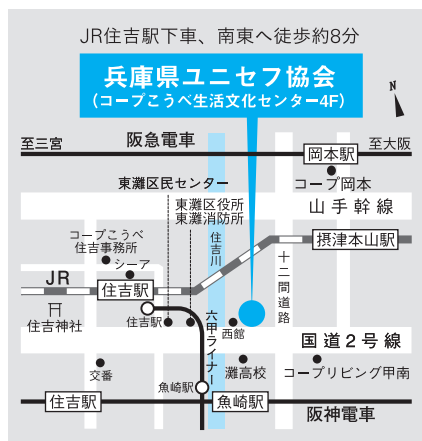
●最新の情報はホームページで

<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫県ユニセフ協会

検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

主催/兵庫県ユニセフ協会

第12回
ユニセフのつどい
Unicef Festival
未来へ
For Our Future

参加費無料

3月9日(日)
10:00▶15:00
コープこうべ生活文化センター
2Fホール

お申し込み、お問い合わせ先 事務局 078-435-1605

NEWS お知らせ

ユニセフ入門講座

4月、6月(予定)

ユニセフ国際セミナー

詳細は随時HPをご覧ください。

国際理解講座

マサイの戦士ふたたび 4月5日(土)

地球のステージ 8月24日(日)

BOOTH 出展参加

2月9日(日)	ユニセフカップ神戸 バレンタイン・ラブラン(ポートライナー市民広場)
2月23日(日)	コープファミリーフェスタ西宮(コープカルチャー西宮)
3月8日(土)	祭inすみよし(コープこうべ生活文化センター)
3月29日(土)	サークル発表会(コープカルチャー神戸北)
4月13日(日)	ユニセフカップ芦屋国際ファンラン(芦屋中央公園)

○ 事務局ニュース ○

兵庫県ユニセフ協会「第6回理事会、第3回評議会」を開催しました

日時:12月9日(月)

場所:コープこうべ生活文化センター

2013年度の事業報告と決算見込みに関する件、2014年度の事業と予算に関する件、役員に関する件、すべての議案に了承いただきました。また、2014年度は、兵庫県でのユニセフ活動エリアの拡充と、より多くの方に知っていただく広報活動に積極的に取り組みます。

ユニセフひょうご サポーター



賛助会員募集中!!

賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支援してください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。